

ワーキンググループリーダーの先生方へのインタビュー ～研究開発学校の研究に取り組んでみて～

Q 本研究の取組が、授業力向上にどのようにつながりましたか？



国語科では、丁寧に教材を読み深める中での単元デザインが重要です。授業では、ねらいに迫るための発問、学習活動、導入やまとめ等の工夫、既習事項を効果的に生かすこと、そして授業時間を60分、80分にするなど、柔軟な発想で授業をデザインすることも指導力の向上に繋がると考えられます。
国語科WG 向原小学校 横山 都美子



WGの取組をとおして、与えられた条件の中で最大限の力を発揮しようとする子どもたちの姿が見られました。限られた時間の中で、質の高い授業を実践することをおして見られた姿でした。40分の間に何かができるのかと考えることが重要ではないかと思っています。今後も「発見」「驚き」「感動」ある授業を目指していきたいです。
社会科WG 大岡山小学校 鈴木 信貴

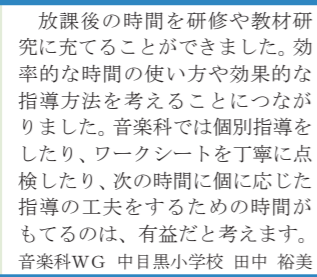
今まで当たり前だった45分授業を40分で行うにあたり、はじめは「5分、されど5分」という気持ちがぬぐえなかった私たちでしたが、研究を重ね、講師の先生にご指導いただいたいくうちに「一単位時間40分の活用の仕方を工夫し、質の高い授業を」と発想が変化してきました。今回ようやくスタート地点に立ったと思います。
算数科WG 駒場小学校 越後 真紀



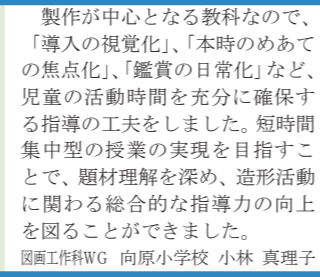
45分授業の5分を圧縮・削減した授業作りという考えではなく、単元全体のデザインをしていくことが重要になります。本研究により単元デザインのポイントが整理され、明確になりました。教材解釈を深め、児童の実態を考慮しながら育成したい資質・能力を明確にし、単元デザインを考えることは大きな価値があると考えます。
理科WG 中目黒小学校 玉村 昌彦



放課後の時間を研修や教材研究に充てることができました。効率的な時間の使い方や効果的な指導方法を考えることにつながりました。音楽科では個別指導をしたり、ワークシートを丁寧に点検したり、次の時間に個に応じた指導の工夫をするための時間があるのは、有益だと考えます。
音楽科WG 中目黒小学校 田中 裕美



製作が中心となる教科なので、「導入の視覚化」、「本時のめあての焦点化」、「鑑賞の日常化」など、児童の活動時間を十分に確保する指導の工夫をしました。短時間集中型の授業の実現を目指すことで、題材理解を深め、造形活動に関わる総合的な指導力の向上を図ることができました。
図画工作科WG 向原小学校 小林 真理子



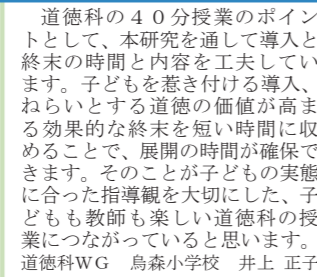
学習内容を学ぶことだけでなく、児童自ら学び方を身に付けていく視点も大切に考え、単元・40分授業のデザインの検討を重ねました。体育科の授業では、運動が教材となって展開され、「運動の過程」(できる作用)と「学習の過程」(分かる作用)を意図的に設定することが授業力の向上につながると考えています。
体育科WG 八雲小学校 大川 裕太



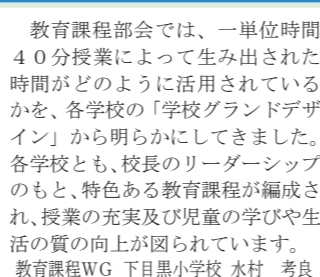
Small Talk では、既習表現を使ったやりとりだけでなく、会話を通して新出語句や表現と出会わせることで、自分の思いや考えなどを伝える力の向上につながっています。教員は、ALT との会話に児童を巻き込むなど、自然な場面の中で児童の習得を促すことを意識するようになってきています。
外国語科WG 田道小学校 田島 晶子



道徳科の40分授業のポイントとして、本研究を通して導入と終末の時間と内容を工夫しています。子どもを惹き付ける導入、ねらいとする道徳の価値が高まる効果的な終末を短い時間に収めることで、展開の時間が確保できます。そのことが子どもの実態に合った指導観を大切にしたい、子どもも教師も楽しい道徳科の授業につながっていると思います。
道徳科WG 烏森小学校 井上 正子



教育課程部会では、一単位時間40分授業によって生み出された時間がどのように活用されているかを、各学校の「学校ランドデザイン」から明らかにしてきました。各学校とも、校長のリーダーシップのもと、特色ある教育課程が編成され、授業の充実及び児童の学びや生活の質の向上が図られています。
教育課程WG 下目黒小学校 水村 考良



1単位時間40分を基本とした午前5時間制の特色を生かしているように、「教員の40分授業における自己診断」や「教員及び児童の実態調査」の結果から分析を行いました。分析を通して、時間という資源を有効に活用するためには、学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントを実施していく必要性を確認することができました。
調査分析WG 中目黒小学校 峯村 幸信



- 令和2年度 研究開発学校推進委員会
- | | | |
|------------------|--------|--------|
| 聖徳大学大学院教職研究科元教授 | 西村 佐二 | (委員長) |
| 目黒区立駒場小学校長 | 北島 陽彦 | (副委員長) |
| 目黒区立中目黒小学校長 | 横溝 宇人 | (副委員長) |
| 目黒区立不動小学校長 | 小泉 修治 | (副委員長) |
| 目黒区立下目黒小学校長 | 秋山 美栄子 | |
| 目黒区立油面小学校長 | 岩前 真利 | |
| 目黒区立烏森小学校長 | 村尾 勝利 | |
| 目黒区立向原小学校長 | 荘司 司 | |
| 目黒区立鷹番小学校長 | 圓山 賢吾 | |
| 目黒区立田道小学校長 | 丸山 智子 | |
| 目黒区立月光原小学校長 | 衣非 まさ子 | |
| 目黒区立緑ヶ丘小学校長 | 若林 研司 | |
| 目黒区立原町小学校長 | 柏葉 清志 | |
| 目黒区立上目黒小学校長 | 高橋 圭介 | |
| 目黒区立中根小学校長 | 藤井 良江 | |
| 目黒区立宮前小学校長 | 渡部 浩文 | |
| 目黒区教育委員会事務局教育指導課 | | |

※目黒区立学校授業スペシャリストも本研究に取り組んでいます。

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度)

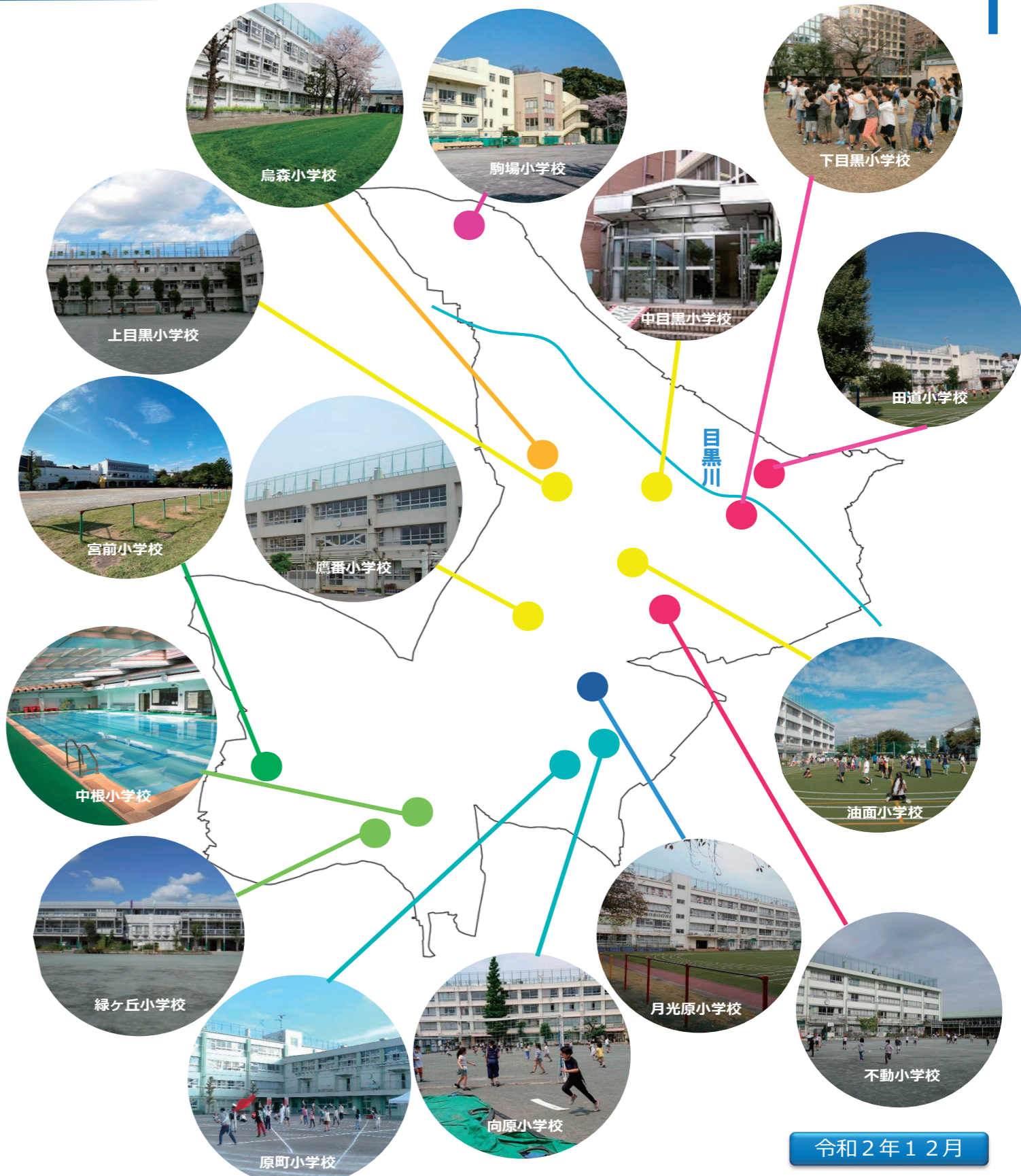
40分授業午前5時間制で

小学校を変える

目黒区発

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度) 「40分授業午前5時間制で小学校を変える」

目黒区教育委員会



令和2年12月

文部科学省 研究開発学校 (令和元年度～令和5年度)
「40分授業午前5時間制で小学校を変える」主要印刷物番号 2教-10号
発行 目黒区教育委員会
編集 目黒区教育委員会事務局教育指導課 (研究開発学校推進委員会)
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15
電話03-5722-9313 FAX03-3715-6951

はじめに

目黒区教育委員会教育長 関根 義孝

目黒区教育委員会では、平成14年度から一部の区立小学校で一単位時間を40分間とした午前5時間制を導入しています。また、平成19年度には二期制を、平成20年度には夏季休業期間の5日間の短縮を導入し、ゆとりある教育課程の中で魅力と活力にあふれ、信頼される学校づくりを進めています。

本区の午前5時間制導入校(15校)は、平成29・30年度の2年間、文部科学省による調査研究の委託を受け、「時間」という資源を効果的に活用する視点から「カリキュラム・マネジメントに関する研究」を行い、小学校外国語教育の教科化など今日的な課題を踏まえた「午前5時間制の有意性」を全国に発信してまいりました。

令和元年度からは、文部科学省「研究開発学校」に指定され、「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による学校の一時休業に伴う授業時数の確保が課題となる中、18年間の取組みで得られたノウハウを活かして、「40分授業午前5時間制」が実践され、効果を上げています。また、都外からの視察の依頼も多く、目黒区における研究開発は、全国から関心が寄せられているところです。

本冊子は、令和5年度まで続く研究開発の中間報告として、学校独自の特色ある教育課程の編成や9教科の単元デザインと40分の授業デザインのポイント等をまとめました。本研究開発を学校組織の活性化につなげ、児童の学びや学校生活の質の向上を目指す取組みの参考としていただければ幸いです。

目次

1	はじめに	1
2	目次	1
3	創意工夫ある教育課程の開発	2
4	目黒区の教育	3
5	目黒区 文部科学省研究開発学校	
	●研究開発グランドデザイン	5
	●40分授業午前5時間制を生かした学校独自の特色ある教育課程	7
	●40分授業午前5時間制 単元(題材・主題)デザインのポイント・40分の授業デザインのポイント	
	国語科 (第3・6学年)	11
	社会科 (第3・6学年)	15
	算数科 (第3・6学年)	19
	理科 (第3・6学年)	23
	音楽科 (第3・6学年)	27
	図画工作科 (第3・6学年)	31
	体育科 (第3・6学年)	35
	外国語活動・外国語科 (第3・6学年)	39
	特別の教科 道徳 (第3・6学年)	43
	●令和2年度 研究開発学校 授業力向上研修	47
	●教員の40分授業における自己診断/教員及び児童の実態調査/成果と課題等	49
	【参考】目黒区立小学校の40分授業午前5時間制	51
	ワーキンググループリーダーの先生方へのインタビュー	53



※研究開発学校：学習指導要領等の現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成・実施が認められ、その実践研究を通して新しい教育課程・指導方法を開発していこうとするもの。

「40分授業午前5時間制」を生かした

創意工夫ある教育課程の開発

児童の学びや生活の質の向上を図るために、

「40分授業午前5時間制」によって時間を生み出し、

学校独自の創意工夫ある教育活動等に生かしています。



「40分授業午前5時間制」で生み出した時間の活用

生み出した時間の例(第4学年以上)

①年間の標準授業時数1015単位時間、45(分) - 40(分) = 5(分)

②5(分) × 1015(単位時間) = **5,075分**



児童			教員	
●教科等の指導の充実 体験・交流活動や出前授業、地域の施設を活用した校外学習等、児童の興味・関心を広げたり、学習内容の充実を図ったりすることができま	●個別指導の充実 授業で分からなかったところや苦手な学習を先生に個別に教えてもらったり、学校生活について先生と話をしたりすることができます。	●自由時間の拡大 放課後の時間を活用して、友達とランドセルひろば等で、たくさん体を動かして遊ぶことができます。放課後、習い事があるとも遊ぶ時間があると児童や保護者からも好評です。	●カリキュラム・マネジメントの観点 生み出した時間の活用や教科等横断的な視点を踏まえた「単元指導計画」に基づき、40分授業を実施することで、児童の実態に合わせた学習内容の充実を図ることができます。	●研修、学年会の充実 放課後の時間を活用して、児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話し合いながら40分授業をつくり出しています。

研究開発学校では、「学校グランドデザイン」を策定しています。策定にあたっては、校長のリーダーシップのもと、全教職員が関わって協議し、共有しています。



目黒区の教育

目指す
子ども像

2
た
人
め

1世紀を
くましく生きる
間性豊かな
ぐるの子ども

目指す
学校像

魅力と
活力にあふれ、
信頼される学校

目指す
教員像

専門性と
協働性があり、
信頼される教員

● 特色ある教育課程 ●

二期制の特色を生かした学校行事の実施等、教育活動を工夫し、創意にあふれた学校づくりを進めています。

- 二期制（前後期各100日程度）
- 学校完全週5日制
- 夏季休業日の短縮（5日間）
- 40分授業午前5時間制の推進（小学校）

E nglish 外国語教育

グローバル化する社会を生きる上で重要となる外国語（英語）によるコミュニケーション能力を育成するため、外国語教育の充実を図っています。

- ALT（外国語指導員）の年間を通じた派遣
- 「目黒区外国語教育モデルカリキュラム」の活用
区独自のカリキュラムに基づいて、小学校第1・2学年15時間、第3・4学年35時間、外国語の学習を行います
- 英語4技能検定試験の実施
中学校第2学年全生徒が、英語技能試験を受検します。
- 課外プログラム
イングリッシュ・キャンプ（八ヶ岳林間学園）
日帰り体験型英語学習（小学校第6学年全児童・中学校希望生徒）（TOKYO GLOBAL GATEWAY）

E ducation 学力向上

区独自の学力調査の結果を活用し、指導方法の工夫や改善、繰り返し指導や補充的な学習指導等の充実を図ることを通じて、学力の向上を図っています。

- 区独自の学力調査
（小学校2年～中学校3年）
- 「授業改善の手引き」・「新学習指導要領を踏まえた指導資料」（区独自資料）の活用
区独自の手引きを用いて、授業改善に取り組んでいます。
- 放課後学習・土曜日の補習授業
中学校では、生徒の学力の定着を図るために、学習指導員が放課後や定期考査前の土曜日に繰り返し指導や補充的な学習指導等を行っています。

C ultural experience 文化的体験

優れた芸術文化に接したり、新しい文化の創造に寄与したりする機会の提供や他校との交流の場、自然の中での学習機会を設け、子どもたちの情操を涵養しています。

- 連合音楽会
（小学校5年・中学校2年）
- 音楽鑑賞教室
（小学校6年・中学校3年）
- 演劇鑑賞教室
劇団四季の公演（小学校6年）
- 連合展覧会
（幼稚園、こども園、小・中学校）
- 連合体育大会
（中学校全学年）
- 自然宿泊体験教室
（小学校4年～中学校1年）
八ヶ岳林間学園
（山梨県北杜市高根町清里）
興津自然学園
（千葉県勝浦市興津）

S pecial needs 特別支援教育

児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服する教育を推進しています。

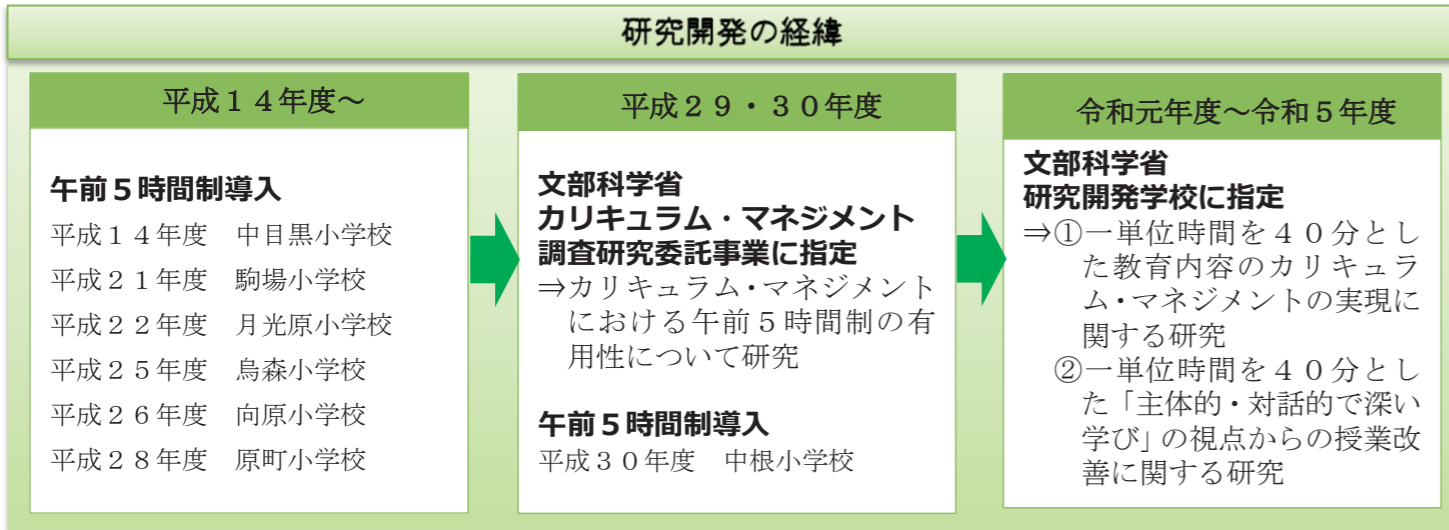
- 特別支援教室の全校配置
全小・中学校に特別支援教室を設置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒の教育の充実を図っています。
- 特別支援教室専門員の全校配置
- 特別支援学級
知的障害
（小学校4校、中学校2校）
肢体不自由（小・中学校1校）
自閉症・情緒障害（中学校1校）
難聴・言語障害通級指導学級
（小学校1校）

「チーム学校」の推進

「目黒区働き方改革実行プログラム」 平成31年3月策定

- 学習指導員【区】
小・中学校：国語科、算数科・数学科、外国語科（チーム・ティーチング）中学校では放課後等指導
- 学習指導講師【区】
小学校：算数科等習熟度別指導、家庭科、体育科等
- 指導方法工夫改善加配【都】
小学校：算数科習熟度別指導
中学校：数学科・外国語科
- 観察実験支援員【区】
小・中学校：理科の観察・実験の準備や片付けをサポート
- ICT支援員【区】
小・中学校：ICTを活用した授業のサポート
- 副校長補佐【区】
小・中学校：各種配布物・来客・電話対応などの副校長の業務補佐
- スクール・サポート・スタッフ【区】
小・中学校：授業準備や採点業務の補助など教員の業務支援
- 学校図書館支援員【区】
小・中学校：学校図書館運営や読書活動推進へのサポート
- スクールカウンセラー【区・都】
■スクールソーシャルワーカー【区】
小・中学校：いじめや不登校の解決、発達障害や福祉等の援助・支援に対するアドバイス
- 特別支援教育支援員【区】
小・中学校：通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒をサポート
- 小1学級支援員【区】
小学校：第1学年の担任を補助（入学直後の児童支援）
- 健康トレーナー【区】
小学校：肥満や体力不足等の健康課題のある児童にそれぞれの課題に応じた運動を指導
- 日本語指導員【区】
小・中学校：早稲田大学大学院日本語教育研究科と協定
- 外部指導員【区】
■部活動指導員【区】
中学校：各種目で専門性を有する外部人材が指導、部活動指導員は単独で指導・引率が可能

研究開発の経緯



研究開発課題

児童の学びや生活の質の向上を図るため、学校教育法施行規則第51条の規定によらず、一単位時間を40分とし、**創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。**

研究開発の概要

● **40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発**

児童の学びや生活の質の向上を図るために、40分授業午前5時間制によって時間を生み出し、学校独自の創意工夫ある教育活動等に生かす。

各教科等の指導方法

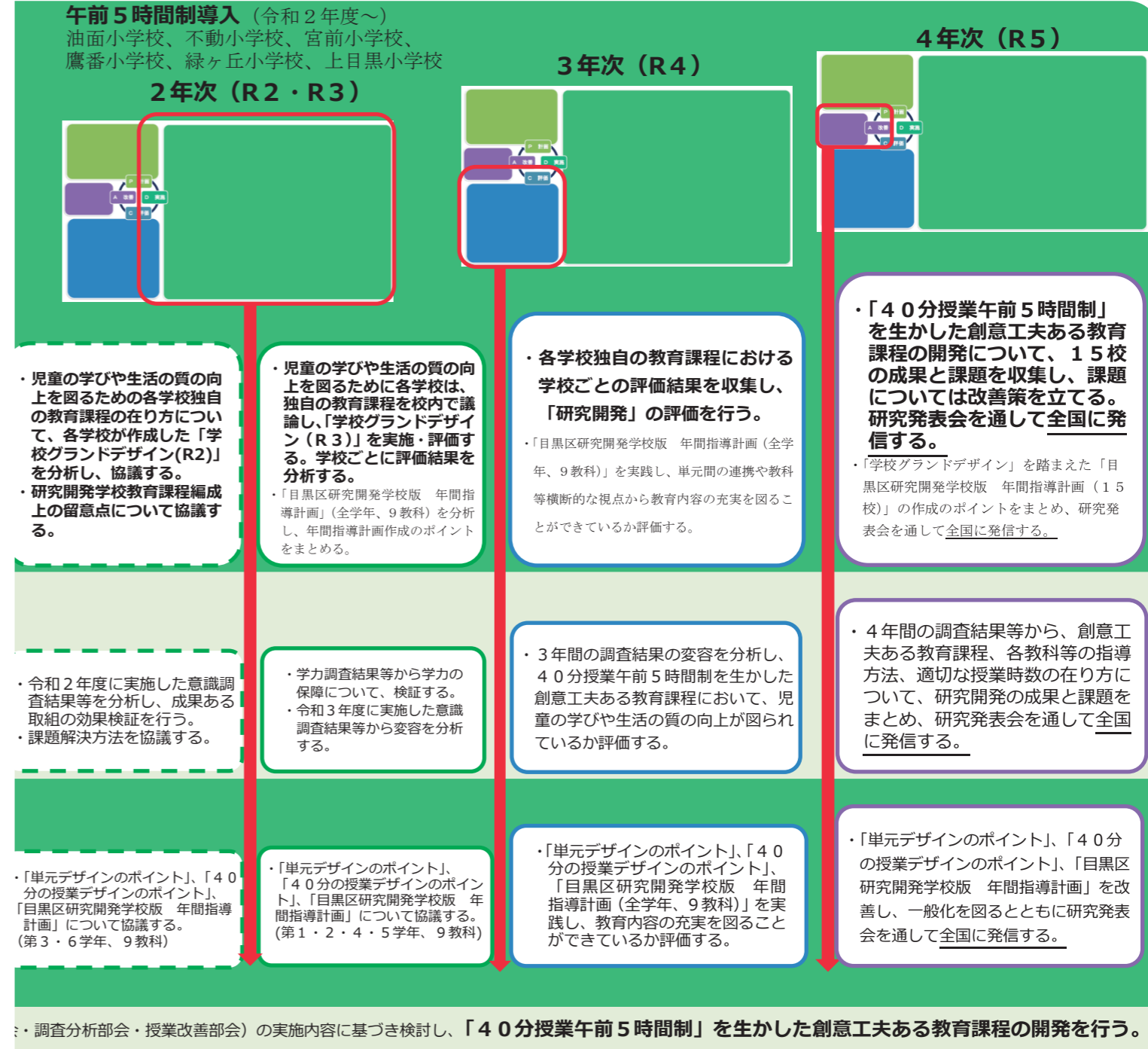
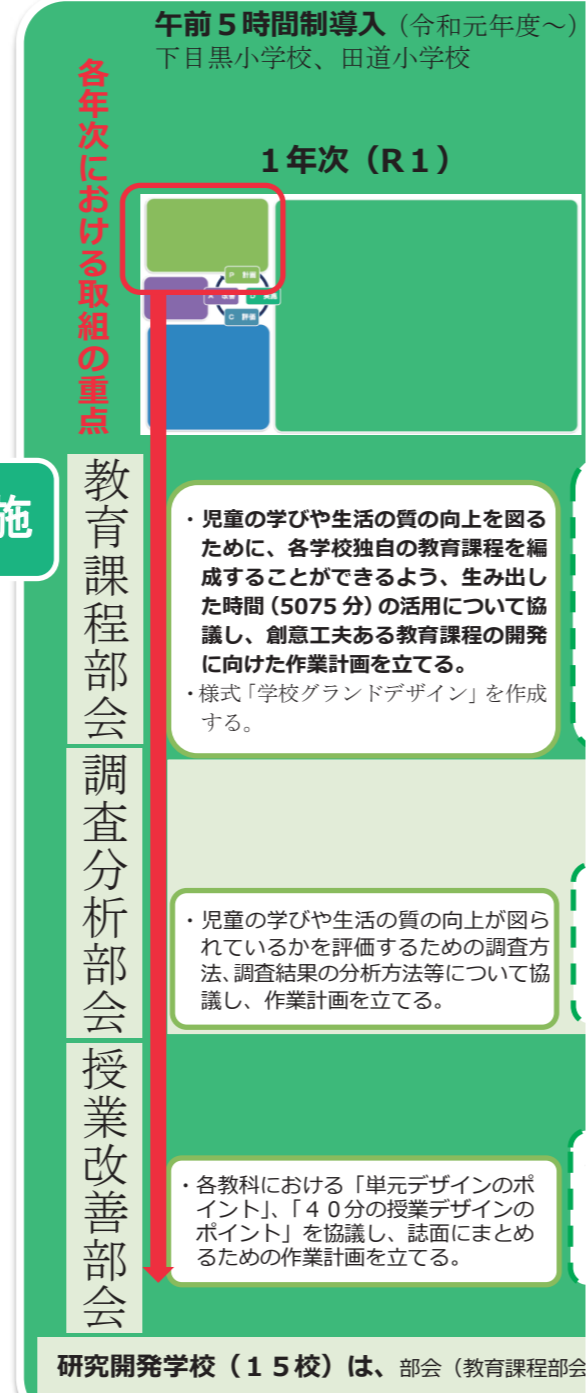
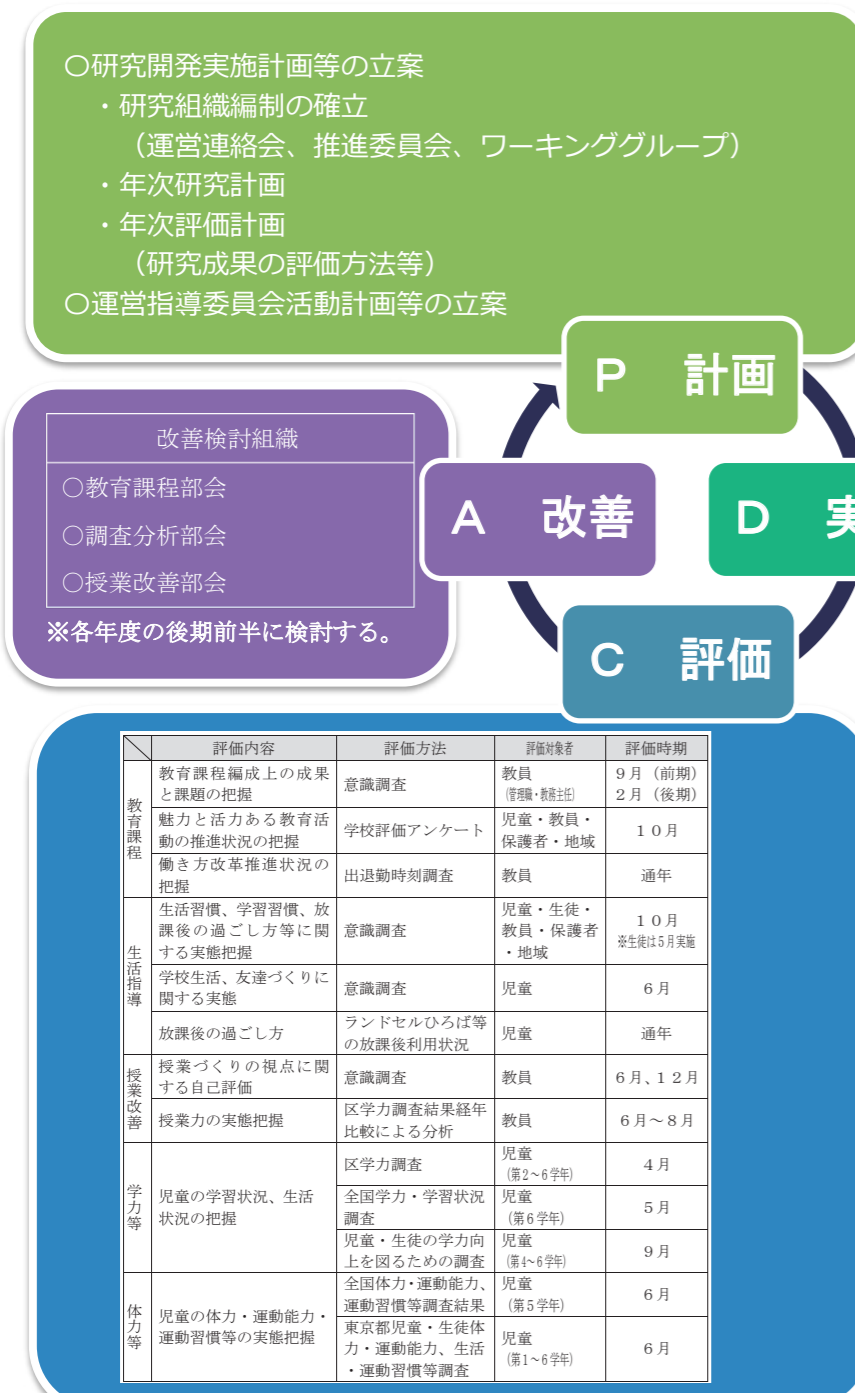
- ・単元デザイン
- ・40分授業デザイン

適切な授業時数の在り方

- ・教育内容の精選、重点化
- ・教育課程編成上の留意点

※「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程と、それを支える各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。

「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程 PDCA



40分授業午前5時間制を生かした 学校独自の特色ある教育課程

40分授業午前5時間制を導入すると、一単位時間45分実施に比べて時間を生み出すことができます。研究開発学校15校は、生み出した時間を活用して学校独自の特色ある教育課程を編成しています。各学校では、校長のリーダーシップのもと、全教職員が関わって協議し、「学校グランドデザイン」を策定しています。

Research:各種調査等による実態
各種調査等から児童の実態、学校や地域の特性などを明らかにします。

校長の学校経営方針
40分授業午前5時間制を生かした校長の学校経営ビジョンの共通理解を図ります。

目指す児童像
「育成を目指す資質・能力」の3つの柱を踏まえ、具体的に書きます。

令和2年度 目黒区立田道小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像	目指す児童像
<p>【学校の実態】 ・児童数382名 ・学級数13学級 ・教員数25名 ・教員平均年齢40.4歳</p> <p>【児童の実態】 <区学力調査> <体力調査></p> <p>【保護者・地域の実態】 <保護者> <地域></p> <p>【40分授業-授業診断結果】 ○時間の管理やめあてを提示して見直しをもたせることへの意識は高い。 ●学習指導要領や単元デザインへの意識を高める必要がある。 ●高学年は、児童自身が学び取る学習を取り入れる意識が高い。低学年は、教師が基礎基本を習得する指導を重視している。</p>	<p>40分授業午前5時間制を生かした経営ビジョン ○生み出した時間で特色ある教育活動を充実させる。 → 田道の2枚看板「外国語教育」「環境保全活動」 ○児童も教師も時間を守る。 → 落ち着いた学校生活(学習規律・生活規律の確立) ○時間を生み出し、有効に活用する。 → 教育目標の具現化(知・徳・体のバランスのとれた育成) → 児童の学び・特色の向上 → 友達、教師との関わりのある豊かな学校生活 ○教師の単元及び授業をデザインする力を高める。 → 校内研究を核とした学校全体の取組</p>	<p>教育目標 よく考えて すんで 行う子【知】 心ゆたかで 思いやりのある子【徳】 健康で 最後までやり抜く子【体】【達成力】</p> <p>田道共育目標<地域と学校が共に育みたい児童の姿> ○思いやる心のある人 ○最後まであきらめない人 ○人とのつながりを大切に人 本校の外国語教育において目指す児童の姿 ○英語を用いて、生き生きとコミュニケーションができる子ども ○学んだことを生かして伝え合おうとする子ども</p>	<p>目指す児童像 21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童 ○よく考える子 ○自ら課題に取り組み、自分らの考えをもとにする。 ○教育内容や日常生活と結びつけながら考える。 ○健康で明るい子 ○前向きに物事に取り組む。 ○規範正しい生活習慣が身に付いている。 ○思いやりのある子 ○誰とでも共に学ぶことができる。 ○相手の気持ちを考えた言動ができる。 ○最後までやり抜く子 ○学習習慣が身に付いている。 ○多少難しくても投げ出さず、最後まで取り組む。</p>

40分授業午前5時間制を生かすPDCA

年間指導計画
・40分授業により生み出した時間の活用
の可視化(他教科との関連等)
・単元の中心領域とその継続性の可視化
単元指導計画
・単元のゴールである目指す児童の姿を実現するために学習活動の継続、積み上げの軸が見える単元指導計画のデザイン
・40分の時間の使い分けにより、児童が主体的に学ぶ時間や他教科との関連を回り学びを深める時間を創出。
・目指す児童の姿を実現するための学習活動の継続・積み上げの軸がぶれない一貫性のある授業デザイン

【改善検討の機会】
➢ 学年会(週1回)
➢ 研究推進委員会(月1回)
➢ 評価改善委員会(年2回)

40分授業午前5時間制を生かす外国語教育の充実

○午前5時間制 40分授業で生み出した時間の活用
・外国語による異学年との交流学習
→ 単元終末に設定
・国際理解教育との関連
授業の英語を生きた英語へ
→ 留学生との交流
→ インドネシア学校との交流
→ One Day 英語村 in Dendo
・小中連携の英語教育
→ 中学校体験授業
→ 中学生の英語出前授業
◎低学年英語活動年間 20時間

○40分授業・60分授業(田道スタイル)
・Dendo Standard(あいさつ)
・Small Talk or Mini Talk*
・Practice
・Activity
・Follow Up
Mini Talk* 中・低学年向け
60分授業
・Activityの充実
・学習意欲の高まりにつなげた書く活動の設定
・交流活動

○他教科等との関連
○国語科 ○算数科
○特別の教科 道徳
○総合的な学習の時間
他教科で学習したことを生かしたり、外国語の授業と並行したりして学習を進めることで、双方の学習の広がりや深まりにつなげる。

○短時間学習【English Time】週1回 20分間
【低・中学年】英語への慣れ親しみを中心とした活動
【高学年】授業の内容に関連させた活動・60分授業への時間活用

既習事項を生かした学習場面や人との交流場面を設定した単元デザイン及び授業デザイン

自分から学ぶ姿勢の確立
●既習事項を生かして、自己の学びを高めることができる資質・能力を育成する。
午前5時間制40分授業により生み出した時間を、既習事項を生かした学習場面の設定へと活用する。児童が、既習事項を生かしたコミュニケーション活動を通して、新たな自己の学びを構築できるようにする。6年間を通して、達成することなく、自分から学ぶ姿勢の確立に向けての学びのスパイラルを形成していく。

自分から学ぶ姿勢の確立
既習事項を生かした学習場面や人との交流場面を設定した単元デザイン及び授業デザイン

生活時間表

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	865	925	980	1015	1015	1015
上回る時数	43 1/2	41	43	31	34	35 3/4
学校数	40	30	24	26	51	48
行事時数	65 1/2	61 1/2	56 1/2	63	85	86 1/4
総時数	1013	1062	1103	1136	1185	1185
	3/4	1/2	1/2			

PDCAサイクル

P計画
校長の学校経営ビジョンを基に、計画を立てます。

D実施
40分授業午前5時間制を有効活用した教育活動を実施します。

C評価
実施の内容について、評価を行うための評価指標と目標値を設定し、評価を行います。

A改善
評価で把握した取組の成果や問題点を基に、改善策について協議します。

一単位時間を40分とし、創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について、全教職員で考えを共有し、学校組織力の向上と活性化につなげ、児童の学びや生活の質の向上を図るために作成されるのが、学校グランドデザインです。学校グランドデザインは、各学校独自のものであり、それぞれが特色ある教育課程を編成しています。具体例を紹介します。

田道小学校 「外国語教育」の充実 下目黒小学校 「総合的な学習の時間」の充実



田道小学校 下目黒小学校
生み出した時間を活用して、「外国語科(外国語活動)」や「総合的な学習の時間」を充実させることができます。

宮前小学校 「行事時間」の確保



授業時数を十分確保した上で、学校行事を行うことができます。

令和2年度 目黒区立下目黒小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像	目指す児童像
<p>【学校の実態】 ・14学級 ・児童数449名 ・教員19名</p> <p>【児童の実態】 ○区学力調査: ○四者評価: ○進路:</p> <p>【保護者・地域の実態】</p> <p>【40分授業-授業診断結果】 ○基礎-基本の定着や学習の見直しをもたせること、板書を意識している教員が多い。 ●発展的な問題を取り入れることや自己評価に対する意識は高くない。</p>	<p>校長の経営方針 児童・保護者・地域・教職員等本校に開きをもつ「下目黒小学校はいい学校」と胸を張って語る「みんなの誇り」である学校を目指す。 そのために、次のことを重視して教育活動を進める。 ・新学習指導要領が目指す「資質・能力」の確かな育成 ・自己肯定感、自己有用感の醸成 ・地域や社会とのつながりの強化</p> <p>午前5時間制-40分授業で実践すること ・時間を学ぶこと(学習のきりの明確化) ・ICT効果的な活用等(しもめ学習指導要領)の重視 ・最後までやり抜く子を生み出すこと ・60分授業の効果的な実施</p>	<p>目指す児童像 よく考えて すんで 行う子【知】 心ゆたかで 思いやりのある子【徳】 健康で 最後までやり抜く子【体】【達成力】</p>	<p>目指す児童像 21世紀をたくましく生きる人間性豊かな児童 ○よく考える子 ○自ら課題に取り組み、自分らの考えをもとにする。 ○教育内容や日常生活と結びつけながら考える。 ○健康で明るい子 ○前向きに物事に取り組む。 ○規範正しい生活習慣が身に付いている。 ○思いやりのある子 ○誰とでも共に学ぶことができる。 ○相手の気持ちを考えた言動ができる。 ○最後までやり抜く子 ○学習習慣が身に付いている。 ○多少難しくても投げ出さず、最後まで取り組む。</p>

40分授業午前5時間制を生かすPDCA

一単位時間 40分で学力保障するためのポイント

- 学習指導
 - ・学習の構えづくり
 - ・しもめ学習指導要領「ミニマム」の重視(導入の工夫、ねらいの明確化、考えた「意見交換したりする時間の確保、児童自身による振り返り)
- 生活指導
 - ・時間を守ることの徹底
 - ・自らの生活を振り返る場の設定
- 児童
 - ・体験的な活動やゲストティーチャーを生かした学習の重視
 - ・しもめタイム(課題別学習)や午後60分授業の設定
- 教職員
 - ・過剰の工夫による授業研究や教材研究、研修、会議、教員間の連携等の時間確保

余裕時間の有効活用

総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを進め、探究的な学習の学び方を身に付ける

○思考力・判断力・表現力等の育成
○主体的・対話的で深い学びの実現

特別活動を充実させ、自主的・主体的に活動する力を身に付ける
視・人間関係形成(ほめあう、褒めあう、励ましあう)
点・社会参画(ボランティア活動、地域活動等)
自己実現(自己探求、自己表現等)

【知識及び技能】
多様な他者と協働する様々な集団活動の経験や活動を通して必要なことについて理解し、行動の仕方等を身に付ける。
【思考力・判断力・表現力等】
課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。
【学びに向かう力、人間性等】
集団活動を通して身に付けたことを生かして生涯にわたる人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

学校裁量の時間の有効活用
次の活動等に必要時数をあらかじめ教育課程に位置づけることで、各教科・領域の時数をしっかりと確保する。
・スタディプログラム(1年)
・学習指導要領「ミニマム」
・学校行事の準備等

各教科で身に付ける資質・能力の育成
(知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等)

各学年の時数内訳(6月1日以降)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	855	915	970	1005	1005
上回る時数	35 1/2	40 1/2	46	41	39 1/2
学校数	12	7	7	7	17
行事時数	13 1/2	12 1/2	12 1/2	12 1/2	22
総時数	904	986	1028	1058	1066
		1/2	1/2	1/2	

各学年の適当たりコマ数

1年	2年	3年
26	27	29
4年	5年	6年
30	30	30

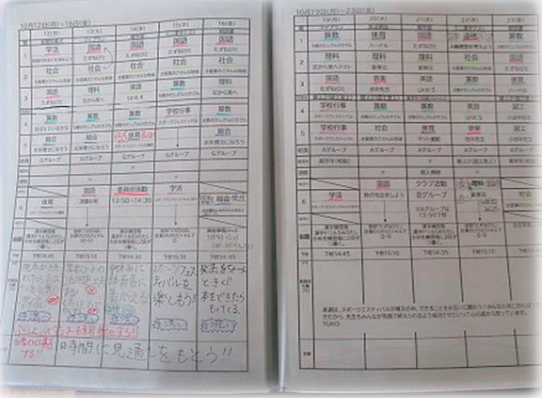
自分から学ぶ姿勢の確立
課題設定から振り返りまで自らの学びをマネジメントする力を育成していくためには、ステップを踏んだ計画的・継続的な指導が必要である。
そのため、今年度は、毎時間の授業においてねらいを明確にするとともに児童自身が学習を振り返る場を必ず設ける。また、総合的な学習の時間の計画を見直し、発達段階に沿って探究的な学習の学び方を身に付けられるようになる。

駒場小学校 「駒場ベーシック」 不動小学校 「不動タイム」 緑ヶ丘小学校 「朝の学習タイム」



駒場小学校 不動小学校 緑ヶ丘小学校
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの素地を育てることを目的に、朝の時間や昼の時間、下校前などに、学習の時間を設定しています。

中目黒小学校「マイプラン」



児童がタイム・マネジメントの力を身に付け、学習や生活の目標を明確にした学校生活を送ることができるように、先週の振り返りと今週の目標を立てる「マイプラン」に取り組んでいます。

令和2年度 目黒区立中目黒小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像
【学校の実態】 19学級 児童数596名 特別支援教室1 教員 32名(男10名、女22名) 主幹(3)主任(11)教諭(18) 平均年齢37歳 【児童の実態】 (1)区学力調査 (2)四者評価 (3)体力調査	基本方針 ○新型コロナウイルスの感染防止を踏まえた、新しい学校生活の様式を基本とした教育活動 ○年間指導計画の随時の見直しと家庭学習との連動 ○学校生活のフェーズを意識し、学校生活への適応から安定、充実から発展 ■午前5時間制のビジョン ○時間を守って行動を徹底 ○8:27-5の時間配分を意識 ○ICTを活用した効率的な指導 ○多様なサイズの授業を展開	【学校教育目標】 ○明るい子 ○考える子 ○たくましい子 ○思いやりのある子 ■確かな学力 ○自ら考え、粘り強く学ぶ子 ○豊かな心 ○思いやりをもち、友達を大切に子 ○健康かな体 ○自らの健康・安全を考えながら行動する子

40分授業午前5時間制を生かすPDCA

指導の重点

- 学習指導
 - ・主体的・対話的で深い学びを実践し、授業の質を高める
 - ・見通す場面、考える場面、振り返る場面を意識した指導
- 生活指導
 - ・マイプランの時間を活用し見通しを持った学習や生活
 - ・学級ごとの目標の振り返り
 - ・不登校、いじめ対応
- 午後の活用
 - 教職員:校内 OJT の計画的な実施
 - 木曜日:学年会、金曜日:生活指導夕会
 - 月曜日の午後に会議を集中
 - 若手研修会を実施

改善検討組織

- 研究推進委員会
- 生活指導部会
- 学年会・専科会

【目的】

- ・児童のタイムマネジメントの力を育てる
- ・学習や生活の目標を明確にした学校生活を送る

【対象】 対象学年から第6学年
【時間】 毎朝10分
【内容】 ①教師が週の予定や留意点を説明
 ②児童が自分の目標や努力事項を記入
 ③活動を振り返る

【目的】

- ・放課後の時間を有効活用した校内研修
- ・相互の学び合いによる主体的・自主的な研修

【方法】

- ・3~4名のグループ OJT の形式
- ・グループで研究主題を設定し、年度末に発表会を行う
- 【時間】午後3時から 40分間を活用
- 【内容】授業改善に関連したテーマを設定

【目的】

- ・学習時間を有効に活用するため、新しい学習過程にもとづく効果的な指導を行う
- ・校内での学習活動が制限されるため家庭学習との連携し学習活動の補完を行う
- 【内容】家庭学習の成果の発表→課題解決のための交流→家庭学習課題の提示→家庭学習 という学習過程を必要に応じて試行する

自分から学ぶ姿勢の確立

【午後の時程の特色】
 低学年:短時間学習(20分間)の設定
 中・高学年:80分授業の設定が可能

時	1	2	3	4	5	6
11:00-11:15	1	6	11	16	21	
11:15-11:30	2	7	12	17	22	
11:30-11:45	3	8	13	18	23	
11:45-12:00	4	9	14	19	24	
12:00-12:15	5	10	15	20	25	
12:15-12:30	6	11	16	21	26	
12:30-12:45	7	12	17	22	27	
12:45-13:00	8	13	18	23	28	
13:00-13:15	9	14	19	24	29	
13:15-13:30	10	15	20	25	30	
13:30-13:45	11	16	21	26	31	
13:45-14:00	12	17	22	27	32	
14:00-14:15	13	18	23	28	33	
14:15-14:30	14	19	24	29	34	
14:30-14:45	15	20	25	30	35	
14:45-15:00	16	21	26	31	36	
15:00-15:15	17	22	27	32	37	
15:15-15:30	18	23	28	33	38	
15:30-15:45	19	24	29	34	39	
15:45-16:00	20	25	30	35	40	

烏森小学校「異学年交流」



毎月1回、40分間の異学年交流を実施し、心の教育や第6学年のリーダーシップ育成に努めています。

油面小学校「関わりを深める時間」



特別支援学級との交流、話し合いを充実させる60分授業、学校行事の練習や生活指導にあてる等、多様な活動を可能にします。

中根小学校「授業力向上」



放課後の時間を活用して校内研修を充実させています。

月光原小学校「職員研修」 鷹番小学校「教員学び塾」



月光原小学校 鷹番小学校
教員の専門性等を生かした学び合いの機会を設定し、各教員の指導力向上を図っています。

令和2年度 目黒区立中根小学校 学校グランドデザイン

Research:各種調査等による実態	校長の経営方針	目指す児童像
研究開発アンケート(H31年度実施) 児童(4-6年生対象) できている、おおよそできている割合 ◎午前中の授業は、集中して取り組むことができているか ◎学校の学習のきまりを守っていますか ◎学校の生活のきまりを守っていますか ◎放課後は教材研究の時間等、有効活用できているか	教育の質の向上を図るため、PDCAサイクルを重視し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。 令和2年度研究開発学校(文部科学省)の指定をもち、午前5時間制の推進を図る。授業時数の一単位時間を40分とし、児童の学びや生活の質の向上と教員の働き方改革の推進及び、本校の実態に応じた創意工夫ある取組の実現を期す。	よく考えて実行しよう(確かな学力) ・目的意識をもち、主体的に問いや課題を探究することで、発展的な考えを生み出していく姿。 ・共に考えようとする態度をもった学習集団。 ・なかよくなつこう(豊かな心) ・他者理解、自己肯定感を高める集団の育成。 ・まず自分で考えよう(健やかな体) ・心と体を一体として捉え、体力向上と共に、基本的な生活習慣を身に付けた児童。

40分授業午前5時間制を生かすPDCA

◎教員の授業力向上に向けて

- ・異学年交換授業の計画・実施、各教科の専門性の向上
- ・各教科スタンダードの作成(中根のすめ)
- ・定期的な授業内評価の確認

◎生活指導の徹底

- ・「中根の子」(生活・学習のきまり)の周知・徹底
- ・スタンダードの確立→安定した学校生活
- ・1週間の時間割配付で見通しをもち、安定した生活・学習の確立

◎学年主任会(評価部会)

- ・各教科部会(評価部会)
- ・各主任会議
- ・研究推進委員会
- ・生活指導部会

40分授業の組み立て

・思考の時間を重視した時間配分
 ・単元ごとで、どのような評価をするのか、視点と規準を明確に

交換授業の充実

・学級・学年を越えての交換授業を実施する。教員の専門性を生かし、教科指導の充実を図る。
 ・教員が専門性をもつことで、6年間見通した体系的な指導を目指す。
 →カリネの実現
 ・どの学年、どの学級でも学習のスタンダードの徹底をすることで、40分間の学習の流れの定着を図る。

自分から学ぶ姿勢の確立

・一週間の時間割配付により、見通しをもち、学習を進める。
 ・家庭学習で、授業の予習となる内容に意図的に取り組ませ、自分の考えをもって授業に臨んだり、40分の授業で思考を深めたりできるようにする。
 ・各教科の単元計画を立てる際、家庭学習の計画も併せて立てることで、学習の効果上げる。また、そのことを児童自身にも実感させることで、家庭学習の効果を高める。
 例:(社会)学習の流れを定着させた上で、小単元の学習のまとめを各自でさせる。
 →小単元同士の接続がスムーズで、次の小単元の学習期間配りの負担が軽減。(意図的な単元配付が必要)
 (国語)物語文の初読の感想や疑問、登場人物の人物を考えて、まとめる。
 →意見を出し合うところから授業が始められる。

60分授業の組み立て(30分+30分、20分+40分)

・専科授業を中心に、豊かな情操を育てる。
 ・表現や活動の目的や学習効果を考え、教科や内容によって、時間配分を考える。

校内研修の充実

・学年会及び、低・中・高学年各部会の充実
 ・放課後の時間を活用して、週一回、学習内容の進捗状況の確認、交換授業の確認。
 ・中根塾の実施→若手教員の自主的研修の場。自分たちで課題を見つけ、その解決や探究のための方法を能動的に考える。
 ・各教科部会→評価の観点を明確にし、定期的に評価物等の確認をする。

向原小学校、原町小学校、上目黒小学校「放課後学習」



向原小学校 原町小学校 上目黒小学校
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、個別に放課後学習を行っています。放課後の時間を活用し、児童に指導することで、個に合った課題に対応することも可能です。